

心理学研究法Ⅱ

科目コード●050509

担当教員●木村 進・白井秀明
中村 修・佐藤俊人 ほか

2 単位

SR

2 年以上

福祉心理
必修

【科目の内容】

この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」、として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。

この「心理学研究法Ⅱ」(2単位)は、スクーリングを6コマ分受講した後にレポート課題に取り組むということになります。

スクーリングにおいては、検査法の実習と調査法のデータ分析(心理統計)の実習を行います。受講生の人数によりますが、1日めの最初に2コマが検査法実習、1日めの3コマめが統計法についての講義、2日めに3コマを使ってデータ分析の実習を行うという予定です。実習はいくつかの小グループに分かれて行うこととなります。実習内容の概要は以下のとおりです。

- (1) 検査法実習(担当 木村 進ほか)
 - ①検査法一般についての講義
 - ②性格検査(「矢田部ギルフォード性格検査」(Y-G検査))の実施と結果の整理
- (2) データ分析実習(コンピュータ使用)(担当 白井秀明ほか)
 - ①心理統計学の基礎についての講義
 - ②統計処理(有意差検定、相関分析等)実習
 - ③結果の読み方についての解説

【教科書】(「心理学研究法Ⅰ」と共通)

スクーリング受講申込者に配布

心理学研究法一般については『福祉心理学科スタディ・ガイド』も参考にしてください。

【スクーリング受講条件】

- (1) スクーリング申込み締切日(8月分は7月24日/3月分は2月12日)までに、福祉心理学科専門必修科目・選択科目A群のなかから7科目分のレポート(4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート)を提出していること(実験科目を含めて可、特講科目は含まれない)。
- (2) スクーリング事前学習(その1)をすませてくること。スクーリング受講申込み者には、あらかじめ「Y-G性格検査の解説」と「心理統計学についての基礎知識」のプリントを送る予定にしています。プリントに書かれている内容は、実習の最初の時間に説明しますが、そのプリントの内容が頭に入っていると、理解が的確にでき、スムーズに実習に取り組めると期待されます。できるだけきちんと読んで理解してくるよう努力してください。
- (3) スクーリング事前学習(その2)『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み、内容を理解したうえで原則的な研究の流れについて要約レポートを作成し、スクーリング初日開始時間に提出していただきます(事前郵送は不可。必ず当日持参)。

要約レポートの作成要領は下記のとおりです。

 - 1) A4判用紙(または原稿用紙)使用1,000字以上 ワードプロ・パソコン可(手書きも可)。
 - 2) 要約は、文中太字の語句を中心に、自分なりの理解でよいのでまとめてください。また、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いてください。書式は自由(箇条書きや図解の使用も自由)です。
 - 3) この要約レポートはスクーリング受講の予習にあたるものです。スクーリング評価の採点対象にはしませんが、スクーリング開始時間に提出しなかった場合は、スクーリングが合格にならないこともあります。なお、返却はしません。

【レポート課題】

課題1・2に分けて、スクーリング受講中、または受講後9月1日まで(3月受講者は3月17日までに)提出すること

課題1 性格検査の結果として示された自分の性格についてデータに基づいて解説し、その結果と日ごろ自分が認知している自分の性格との異同について論じなさい。

課題2 当日わたされたデータを統計的手法を用いて分析し、その結果をわかりやすく整理した後、仮説が支持されたか否か検討しなさい。

※これらの課題のレポート用紙は当日配布します。

2 単位め

スクーリング受講後に提出すること

パーソナリティ検査における質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べ、それぞれ代表的な検査の2～3について解説しなさい。

【アドバイス】

1 単位めのレポートは、スクーリング時に指示する方法で提出してください（スクーリング期間中提出でも9月1日（3月受講者は3月17日）必着で郵送でもよい）。



この実習は、第一に、とりあげた性格検査の実施方法および結果の分析法を正確に理解することが目的です。Y-G 検査の実施については、受講生一人一人に体験してもらうことはできないので、デモンストレーションになりますが、やり方はそれほど難しくありません。したがって、実習のポイントは、結果の整理の仕方についてきちんと理解することにあります。資料および説明をしっかり理解して、きちんと整理・分析をしてください。それを前提にしてレポート課題が設定されています。その内容は、下記の通りです。

- (1) Y-G 検査の結果をきちんと読んで、結果に表れた自分の性格についてまとめる。
ここでは、あくまで性格検査の結果に基づいて自分の性格がどうであるかを明らかにします。類型だけでなく、それぞれの性格特性および性格特性どうしの関連性まで解釈の対象にして、できるだけ詳しく自分の性格を明らかにしてください。
- (2) 次に、その結果と、（性格検査とは関係なく）日ごろ自分が抱いている自分の性格とを比較してみてください。(1)はあくまで使用した性格検査の結果であって、自分が認知している内容と合っている部分もあればそうでない部分もあるはずですが、そういうことを明らかにしてください。
- (3) できれば、(2)で明らかになった食い違いがどこから来るかについて考えてみてください。

[注] 解説の部分で述べたように、このレポートは、実習がきちんとできているかということを第一に重視しています。したがって、レポートを提出する際に、きちんと結果の整理が終わっている検査用紙を添付する必要があります。もちろん、レポートの内容が問題ですが、検査用紙が添付されていない場合、あるいは、結果の整理が指示通りにできていない場合は、「不合格」(再提出) となります。注意してください。



スクーリングの実習では次のことを行います。まず、ある仮説を確かめるための架空の調査研究によって得られたデータが入力されてあるフロッピーディスクをお渡しします。そのデータに対して統計処理ソフト SPSS を使って「t

検定」「 χ^2 検定」「相関分析（無相関検定）」を行い、それらの分析結果から、仮説が支持されたか否かについて判断する、という練習をしていただきます。

レポート課題では、実習時とは異なる研究例のデータに対して、

- ・仮説の検討に用いる分析手法を選択する
- ・SPSS を用いて実際に分析する
- ・どういう結果となったか、文章と表でわかりやすくまとめる
- ・仮説が支持されたか否か結論を下す

ということをお一人でお一人作業していただきます。

多くの受講生にとっては、何のために統計処理をするのか、また、その結果は何を意味しているかということについては、ほとんど知識がなく戸惑うことが多いのではないかと予想されます。その点については、実習の最初に行う講義（解説）で説明しますので、講義をきちんと聴くということと、ある程度予習をして「統計学」ということについても基礎的な学習をしていくことを期待しています（前述の「事前学習」参照）。



スクーリングを受講した人が、「2 単位めのレポート課題」に取り組むこととなります。

2 単位めのレポートは、通常のレポート用紙に記入して、提出してください。

パーソナリティ検査（性格検査）は、検査の仕方によって「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などに分類されます。この課題は、まず、それぞれの方法について、その考え方、長所と短所などについて解説することが求められています。そして、それぞれの方法を使った代表的な検査（スクーリングで使用する「Y-G 検査」は除く）を2～3選んで、その検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などについて説明するというのが、課題の後半部分です。

なお、この課題は、

- (1) 質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分
- (2) それぞれの代表的な検査の2～3について、検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などを解説する部分

で構成する必要があります。

ただし、(2)で3種類×2～3の合計6～9個の検査についてくわしく述べていくと2,000字はおろか4,000字でもまとめきれない場合があります。

つきましては、4,000字でもまとめきれないとお感じの方は、(2)の部分では、質問紙法・投影法・作業検査法のそれぞれ代表的な検査の1つについてまとめていただくか、または、全体で1つの検査についてまとめていただいても結構です。

(1)の「質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分」がこの課題の中心と

人格心理学

科目コード●050511

担当教員●皆川州正



4単位

R

2年以上

社会教育
選択B

選択A

なりますので、(2)については簡略にまとめてください。

なお、2単位めの課題では、レポート用紙のp.9～16まで使用し、4,000字程度まででまとめていただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。もちろん2,000字程度でも結構です。

「心理学研究法Ⅱ」はスクーリング科目なので、このレポート課題よりも、スクーリングにおける実習に重点が置かれています。したがって、このレポート課題は、適当な参考書を見つければ書ける内容になっています。参考書入手が困難な受講生は、スクーリングの際に図書館を利用して、レポートの材料を集めておいた方がいいでしょう。なお、参考文献を明記することを忘れないでください。

【参考図書】

●心理検査に関するもの

- 松原達哉編著『心理テスト法入門 [第4版]』日本文化科学社、2002年
- 大村政男・花沢成一・佐藤誠著『心理検査の理論と実際 (第4版)』駿河台出版社、1998年
- 塩見邦雄編著『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
- 岡堂哲雄編『心理検査学 (増補新版)』垣内出版、1993年
- 渡部洋編著『心理検査法入門』福村出版、1993年

●心理統計に関するもの

- 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年
- 岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年
- 大村平著『改訂版 統計のはなし』日科技連、2002年
- 松田文子ほか著『わかって楽しい心理統計法入門』北大路書房、2007年
- 丸山欣哉ほか著『学生のための心理統計法要点』ブレイン出版、2004年
- 山内光哉著『心理・教育のための統計法<第2版>』サイエンス社、1998年
- 山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004年
- 南風原朝和著『心理統計学の基礎』有斐閣、2002年
- 神宮英夫著『はじめての心理統計』川島書店、1998年
- 田中敏著『実践心理データ解析』新曜社、1996年
- 森敏昭・吉田寿夫編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房、1990年

【スクーリング受講上の注意】

3月のスクーリングを受講して3月末に卒業することは原則としてできません。

【科目の内容】

ある状況で人はその人なりの思考や行動をとります。しかも、別なときの同じような状況でもその人はその思考や行動をとりがちです。このように一貫性と持続性をもったその人特有の思考や行動の特徴的傾向の体系を「人格」といっています。「人格」と「性格」はほぼ同じ意味で用いられますが、区別するときは、「人格」は態度、興味、価値観などを含む心の全体的特徴を指し、「性格」は主として感情や意志の側面の特徴を指します。

人格心理学では、①個人の全体性と独自性の記述と理解、②個人差の理解と予測、③自我・自己の理解、④人格の発達・形成過程の理解、⑤自己成長・人格変化の過程の解明と援助、⑥人格の障害・病理、⑦人格と健康の関連、⑧人格の理解の方法などについて学びます。

【教科書】

岡田斉編『心理学理論と心理的支援』(社会福祉士シリーズ2)(第3章) 弘文堂、2008年(平成20年度以前履修登録者) 2009年4月より教科書のタイトルが変わりました。内容は、以前の教科書『臨床に必要な心理学』と同じです。

【レポート課題】

【説明型レポート】

下記について各300字以上500字以内で簡潔に説明してください。

- ① ミッシェルの状況論の意義について
- ② 学習性無力感とその克服のための援助について
- ③ 自己概念の意義について
- ④ 認知の歪みが感情や行動に及ぼす影響について